

第2号
2019.4

お西さん

執行長

しゅぎょうちょうプレス

PRESS



シテ方観世流

京都観世会会長

西本願寺 執行長

片山 九郎右衛門

武田 昭英

西本願寺へ。

長い歴史が培った 本願寺と能のご縁



毎年5月20、21日、本願寺では親鸞聖人のご誕生を祝って宗祖降誕会をおつとめします。21日には祝賀行事として観世流の能が演じられます。

難しく「鑑賞」するより 登場人物になった気分で

武田 きょうは、祝賀能の舞台となります。南能舞台を眺めながら、シテ方観世流の十世片山九郎右衛門さんに、いろいろ伺いたいと思います。まず、今年の祝賀能で演じられる番組について教えてくださいませんか。

片山 『田村』と『百万』を演じさせていただきます。『田村』は「勝修羅」といわれる勇ましい武家の話です。侍、公達の話は「修羅物」と呼びますが、中でも戦に勝った側のほうの話が勝修羅です。坂上田村麻呂の清水寺建立縁起のようなことを内容として、勇ましい、キレイのいいお能です。『百万』は、実在したといわれております当時の芸能者で、百万山姥という女曲舞師が、失った自分の子供に

出会えますようにと願い各地をめぐる、それが阿弥陀様の力によって引き合わせられるというお能です。

お能を難しく考えて、どのようにして観るんですか、とお尋ねになる方は多いのですが、どの曲でもご自身が登場人物の一人になったようなつもりでご参加いただけると、いちばんよいかなと思います。

演じて心躍る

西本願寺の能舞台

武田 本願寺は、北能舞台(国宝)、南能舞台(重文)を擁し、書院の対面所と白書院にも室内の能舞台のしつらえを備えるなど、古くから能楽との縁が深く、明治七年に降誕会で能が演じられた記録が残っています。演じていただくのは南能舞台ですが、演じる側からご覧になって、いかがでしょうか。



片山 九郎右衛門 (かたやま くろうえもん)

2011年1月十世片山九郎右衛門を襲名。
能楽シテ方観世流。1964年京都府生。
芸術選奨文部科学大臣新人賞など数多く受賞。

武田 昭英 (たけだ しょうえい)

2018年8月29日西本願寺執行長に就任。
1944年広島県生。
広島県府中町の龍仙寺前住職。

片山 ほんとうに得がたいロケーションです。今は舞台のほとんどが能楽堂になり建物の中に入っていますが、本来、能が始まった頃は野外でやっていましたし、開けたところで人が集まって演じられていました。能には四季に富んだ演目があり、それを邪魔しない、季節の違和感をもたせないようにつくり、ということでは、西本願寺さんの南と北の能舞台というのは、その基本になって

います。舞台での役者の方角というのがあるのですが、明りの入り方、時間の感じ方に、屋内ではなかなか考えられないような自然な採光がされています。
武田 演じられる時間帯なども考え尽くされているわけですね。
片山 降誕会の際に、みなさんが少しでも近くで観たいと、縁のほうにずっと寄ってこられるのですが、じつはかえって見えにくくなるのです。

能舞台奥は、鏡板かがみいたと呼ぶ壁に松が描かれています。 「鴻之間」を出ないで室内から見ただけだと、松がくっきり浮かんで見えます。しかし、縁まで出ますと、これが逆光で見えなくなってきました。そのあたりが本当によく考えられています。

時代の「古び」ということもお能の中では大切でして、この破風の趣き、檜皮の趣き、柱の古びよう…

能というのは、演じる場所にあまりデコレーションの強いものを受け付けないのですが、南能舞台は演じさせていただく時に姿がとても美しく浮かんで、陰影の素晴らしさを感じられます。本願寺南能舞台にはいつも心の躍るような思いがあります。

身体が大人の準備をする頃 徹底的に身体を直す

武田 なるほど。舞台にも個性があり、演じるための環境も変わっていくということがよくわかりました。しかし、そういったことを感じて理解できるまでには、相当の経験をされてこそだと思いますが、この世界で一人前になるための修行とは、どのようなことを積み重ねてこられるのでしょうか。

片山 子どもの頃は、父からあまりいろいろと言われません。「こうしななければいけない！」と型にはめるのではなく、もう少ししたら、型に

はめる時期はやってくる、というような、待機期間のようなものでした。ところが十代の変声期に入りますと声も出なくなるのですが、その頃に、徹底的に身体の骨組みを直されることとなります。真っ直ぐ立つというだけでも容易でないのに、舞台上に立った時に、緊張感を持って美しく見えるための基本ですね。よいいな癖をそぎ落とすような稽古をつけられるのですが、しよっちゅう叩かれました。たとえば肘が曲がっていたら、そこをパンとやられる。

そういう時期を通り抜けた上で、二十代の後半くらいに自分のスタイルというのが決まってきました。それから三十代、何でもできるところでか慢心したような頃に、また、今度は頭を打つことになるのです。

武田 なるほど、だんだん厳しくなってくるわけですね。私たち浄土真宗には、厳しい「修行」はありませんが、今のお話を聞くと立ち居振る舞いなど作法の厳しさも大切なことと感じます。お稽古は、一日、朝から晩までおやりになるのですか？
片山 自分だけの稽古というのは、一日のうち二時間できれば上等なのですが、他人様の稽古とか、アマチュアの方の稽古というのも全部入れますと、朝の八時頃から夜の十時半くらいまで、ずっと声を出し続けたりということが多い気がします。



執行長が行く

京都の観世流のホームグラウンド・観世会館へ武田執行長が訪問し、能の魅力体験。

能楽堂でシテ方観世流の分林道治さんから能の魅力などについて説明を受ける武田執行長。能舞台の板の下には本願寺と同じようにツボが仕込んでいます。堂本印象が描いた鏡板が豪華。

ドンッ! ツツ!
ドンッ! ツツ!



Interview



片山九郎衛門さんによる「屋島」= 昨年の祝賀能より

意外に思われるかもしれませんが、能の稽古というのは、多人数が寄ってのリハーサル的な稽古はごく少なく、一人だけで、あまり人にお見せできないような自分なりの稽古方法というものを、ずっと続けていくことが中心です。同じところを何度も何度も繰り返して得心がいくまでやり直します。ここがいちばん大事だと思っています。

武田 お聞きしていて、私たちはどうなのかなと思われました。私自身は、ふだん広島のお寺にいるときも毎日、朝から、おつとめをして、お参りにも行きますが、これからお

つとめがあるから、ではその前に声を出して、という稽古をするということはありません。伝統芸能の世界はことさら、みなさん毎日が訓練というか、鍛錬というか、それが生活のあり方ということなのです。

本願寺では、式務部の職員は、法要前に声を出したり、喚鐘の鐘を打つ練習を毎日やっています。おつとめも鐘の響もすばらしくて、ぶらりと本願寺を訪れた方々も感激しておられますよ。

今日は多くの深いお話しを伺えて、お能の見方が変わりました。降誕会祝賀能を楽しみにしております。



岸田工業(株) 棟梁 岸田直彦さん (54)

飛雲閣の屋根
葺替完成で
再びあの造形美を

職人さんに聴く

来春の完成に向けて作業が続く国宝飛雲閣の修復工事は、屋根の葺替が完成。これを手がけた棟梁の岸田直彦さんにお話を伺いました。

「うちは、板葺、樹皮葺といった植物性の屋根を中心に仕事をしていて、飛雲閣は板葺の一種である柿葺です。屋根板には榎や杉が用いられることも多いですが、飛雲閣は榎だとのこと。「弁当箱や桶に使われてきた油分のある木で水に強いのです」。しかし、もう伐れる榎はほとんど無く、国有林からのわずかな量しか確保できないのです。

「自然素材は年月とともに腐って溶けていきますから、それをいかに遅らせて長く保たせるかも我々の仕事」。長さ30cmの屋根板を3cm一足としてずらしながら重ねて、竹釘で打ち葺き上げます。10段(10段)ごとに葺込銅板を入れて屋根板の腐食を防ぎます。

一番難しいのは、屋根のあの独特の曲線。「柿は基本、榎目に割っていくのですが、曲線の部分には追い榎という少し斜めにとって年輪の繊維で保たせていくような工夫をします」。そうして葺き上げた、飛雲閣独特の屋根。何よりその曲線の美しさを見てほしい。「飛雲閣の創建時期は不明ですが、屋根の曲線から見ると室町時代の建物のような印象をもたせます。葺きたての屋根は真新しすぎて、という方もおいでですが、修復当初の今だけの魅力もあります。ぜひ一度見ておいていただければと思いますね」。



宗祖降誕会期間中、修復中の飛雲閣(外観)の特別公開が決定しました。

5月20日 10:00~13:00
21日 11:30~15:30

葺替直後の美しい屋根を
ご覧いただける機会は今だけ!

新着情報

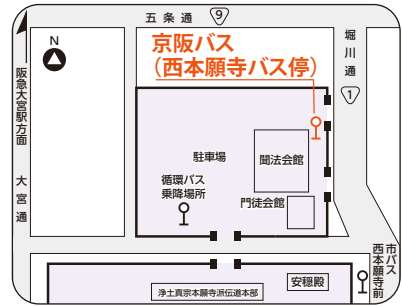
京阪バス運行開始



大谷本廟へアクセスが便利に
2019年4月より、西本願寺～大谷本廟を結ぶバス路線が開設されました。間法会館前のバス停より朝7:00から30分間隔で21:00まで運行(土、祝日は20:30まで)。大谷本廟へは「五条坂」バス停で下車してください。230円。

本願寺と大谷本廟を結ぶ京阪バス出発式

(本願寺)京阪バス乗降場所



※無料循環バスの運行については大谷本廟ホームページをご覧ください。

〈大好評!〉門前の新名物 執行長カレー

「六堀」清水正シェフに、レシピの一部を明かしてもらいました。「執行長ご出身の広島と京都との出会いを感じるカレーを作りたいという思いで広島のお好み焼きをイメージしたキャベツを使用しました。彩りきれいな甘酸っぱいキャベツマリネの食感と、京都でいう「かしわ(鶏肉)」をトッピング。ウコンと生姜をたっぷり効かせて隠し味に牡蠣エキス。仕上げには削りたてのレモンでさわやかさを。身体にやさしく健康に良いパンチあるカレーができましたので、ぜひお召しあがりください。」

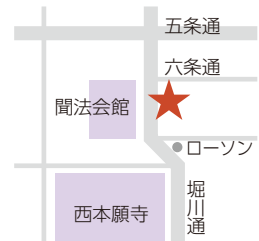


サラダ付 980円(税込)

クーポン

本紙をご持参で
チーズ玉子トッピングサービス

有効期限 2019年7月31日まで



せいようしゅうりょう ろくぼり 西洋酒樓 六堀

京都市下京区堀川通六条下る元日町5
☎075-354-8117
11:30~22:30
(ランチ11:30~14:00LO)
(ディナー18:00~20:30LO)
水曜日、第2・4木曜日休

イベント・法要行事

Events

- 法要(お勤め)
- 法話(仏様のお話)
- 国宝書院特別案内
- 京の文化体験
- 参拝ツアー
- いちろく市(露店販売)

※要事前申込 ※荒天中止

毎月16日は Shinran's Day

親鸞聖人の日
本願寺では、毎月16日に
各種イベントを開催しています!

宗祖降誕会

2019年 5月20日・21日
西本願寺

親鸞聖人のご誕生をお祝いする日

宗祖降誕会にご参拝ください。

5月20日・21日

5月20・21日に宗祖降誕会が本願寺御影堂でおつとめされます(20日14時から、21日10時から)。あわせて茶席(20日12時30分から、21日9時30分から)と祝賀能(21日12時30分から)が催されます。「茶席券・観能券」は当日、白洲受付テントおよび参拝教化部受付にて5千円以上の懇志をご進納いただいた方に1枚ずつお渡しいたします。
※詳細はお問い合わせください。

Nishi Hongwanji

The pure land teaching established by Shinran Shonin(1173-1263)tells us that all are embraced by the power of Amida Buddha's Primal Vow.Entrusting in this Vow enables all to live in the present with confidence and peace of mind and assures them that they will be born in the Pure Land where they will attain Enlightenment.

The purpose of this teaching is to enable all to live lives to the fullest, becoming aware of both potentials and limitations in this world.Through this Teaching, all may be able to overcome difficulties, thus realizing true happiness within this lifetime.

Excerpts from Jodo Shinshu - A Guide